

Club Je Pense

2021年4月講義

『分析哲学』の実践

今一度

哲学の役割を確認してみましよう

古代哲学では

「人がより良く生きるには」

や

「自然の仕組みとは」

というようなテーマを扱っていました

代表的な例だと

ソクラテス 「無知の知」

プラトン 「イデア論」

タレス 「万物の根源は水」

レラクレイスト 「万物は流転する」

中世哲学では

「神」を基盤とした世界観

キリスト教についての議論が全盛のため

真理の追求より神の証明

近代哲学では

自我や理性や認識に言及

主観と客観の棲み分け

代表的な例だと

パスカル 「人間は考える葦である」

スピノザ 「世界は全て必然である」

デカルト 「我思う我あり」

カント 「認識論的転回」

ヘーゲル 「弁証法」

現代哲学

実存主義 「実存は本質に先立つ」

構造主義 「構造は実存に先立つ」

ポスト構造主義 「脱構築」

これらの哲学は
人生観や世界観であり思想である

科学などの発展でも
哲学的な視点がそれを支えています

例えば

犯罪をなくすためには
犯罪者に道徳ピルを投与するのは
正しいことか？

望ましい子供を生むために
遺伝子操作をすることは正しいか？

老化遅延や生命延長は
正しいことか？

などなど
人類が、私が

「どうあるべきか？」

という哲学が科学の方向性を支えている

こういった

世界観や人生観や思想を学ぶことは
私達がより良く生きる助けになります

それに対して分析哲学は
ある対象を分析して
論理を明晰にする道具

論理の明晰化とは

物事の筋道や法則的つながりなどを
明らかにしてはつきりさせること

おもに分析哲学では

言語分析や概念分析を通じて
対象を論理的に明晰化する

なぜ

言語や概念を分析するのか？

言語論的転回

それまでは
認識論的転回と言って

「私が認識するから存在する」

という考え方でした

しかし

何かを認識するには言語が不可欠です

恋という言葉や概念を知らずに
恋という感情を認識できるか？

つまり

認識の前に言語があり

言語があるから認識でき
認識できるから存在する

つまり

まず言語あり

それから世界が開かれる

逆に言えば

言語として認識できないもの
概念として認識できないものは
その人には存在しない

例えば……

ミッキーを探せ



ここに存在します



当たり前ですが

ミッキーという言葉や概念を知らない人は
ミッキーがいることに気づけません

つまり

あると感じることは
それを存在たらしめる
言葉や概念が先にある

自分を動かすにしても
他人を動かすにしても
言語と概念に切り込むことで
新しい世界が広がる

ですから

「分析哲学する」

ということは

対象の言語や概念を分析して
対処の成り立ちをはっきりさせること

それでは実際に

言語分析や概念分析を試してみましょう

ワーク

この投資にリスクはありません

この文の論理を明瞭化してみましよう

次はあなたが分析した言語や概念を
分析してみましよう

ご成長ありがとうございます